

(1) 四国中央ブロック (四国中央市)

～産地づくり～

県内最大の生産量を誇る「さといも」「やまのいも」「茶」の産地が形成されていますが、高齢化や担い手不足等により産地の維持・拡大が課題となっているため、高品質な安定生産技術の普及等を通じて、出口戦略を見据えた産地づくりの強化を目指します。

～推進品目や産地づくりの方向～

○「さといも」の生産・品質の安定化による産地強化

【取組】

- ① 広域選果場に整備した、粗選果の省力化に有効な「分割・根切り等作業機」の利用を促進し、大規模栽培者を育成
- ② 病害対策として、疫病の集落ぐるみの防除体系モデルを実証
- ③ スマート農機（ドローン）を活用した省力化防除の実証

【成果】

- ① 粗選果利用大規模農家：11人、利用量：48t〔R4：14人、100t〕
- ② 疫病初発発生期：6月26日〔例年：7月中旬〕→体系防除徹底
- ③ JAファームうま等と連携した防除実証（8/12：1.8ha）



疫病初発警戒防除

○「やまのいも」の省力高品質多収技術とブランド化による産地拡大

【取組】

- ① 産地の維持・強化に向け、やまじ丸生産振興協議会（市、JA、生産者等）で目標を共有し、連携して活動
※「やまじ丸」（H31.1商標登録）は平成21年に県農林水産研究所が育成した「やまのいも」の新品種「やまじ王」を四国中央市内で栽培したもの
- ② 高品質安定生産のため、中玉生産技術等を実証
- ③ 地域での知名度向上のための学校給食提供、産業祭PR

【成果】

- ・生産量：124t〔R4：102t、R3：125t〕
 - ・生産額：5,770万円〔R4：4,600万円、R3：4,250万円〕
- ①③「やまじ丸」を学校給食で提供：3回〔R4：5回〕



協議会で目標共有

○「結の霧ひめ」で茶産地と生産者、茶商品をデジタル配信

【取組】

- ① 四国中央市の茶産地の愛称「結の霧ひめ（R4.1商標登録）」を用いて、山里の茶園を背景に、お茶をつくる人と茶の商品をSNSで配信し、販売促進とPRを実施
- ② お茶の魅力を感じて楽しむ茶摘みや手もみ茶の体験を地域イベントで開催

【成果】

- ①
 - ・粗茶生産量：22t〔R4：18t〕
 - ・生産額：6,200万円〔R4：5,400万円〕
 - ・「結の霧ひめ®」販売数：3,400袋〔R4：2,400袋〕
- ② お茶摘み&手もみ茶体験会の実施：市内から家族等で約30人参加



お茶を五感で堪能

～地域づくり～

地域農業を維持・発展させるため、四国中央市農業振興センター（四国中央市、JAうま、四国中央農業指導班等で構成）では、青年農業者や認定農業者、女性、農業参入企業等多様な担い手を確保します。また、就農後も支援を継続することで、地域を支える農業者を育成し、鳥獣被害対策の強化や地産地消の推進等による地域づくりを進めます。

～推進対象や地域づくりの方向～

○地域農業を支える担い手の確保育成

【取組】

- ① 農業振興センター企画委員会を開催し、関係機関・団体と情報共有を図ったほか、認定・青年農業者等への情報提供を推進
- ② 就農希望に即した就農相談や経営相談を実施

【成果】

- ① 連携会議の開催 : 12回
- ② [・就農相談件数 : 11人
・新規就農者の確保 : 2経営体



認定農業者等審査会

○鳥獣被害に強い集落づくりによる生産基盤の維持

【取組】

- ・市内全域の鳥獣による農産物被害の実情を把握して、重点指導地域を選定。ロールモデルとして、地域育成・活動を強化
- ・鳥獣害防止施設の有効活用を推進

【成果】

- ・重点指導地域の被害状況の調査 : 2か所
- ・遠隔監視装置付き捕獲檻及び地獄檻の活用指導 : 3か所
- ・捕獲頭数 : 29頭〔R4 : 27頭〕



地獄檻でサルを捕獲

○地産地消の推進

【取組】

- ・地元産の米や野菜、果物を使った食事を学校給食や食農教室、子ども食堂で提供して、地域内のつながりを向上
- ※平成17年、『「食育」に根ざした「地産地消」を推進する都市宣言』を行い、市内全域の小・中学校の学校給食米は、全てエコえひめ認証を受けた地場産を使用し、直売所でも「うまさだち」のブランド名で販売中

【成果】

- ・学校給食野菜・果実供給率 : 29.4% ※目標40%
〔R4 : 30.7%、R3 : 33.4%〕
- ・エコえひめ認証米「うまさだち」栽培面積 : 45.0ha
〔R4 : 43.8ha、R3 : 44.3ha〕
- ・産直市販売額 : 6.9億円〔R4 : 6.6億円、R3 : 6.5億円〕



学校給食米の収穫イベントの実施

～水田のほ場整備を推進して農地集積を図ります～

○大区画化により担い手への農地の集積・集約化を目指す

【取組】

- ・ほ場整備の実施に向けた話し合いの実施
(整備構想、地元の合意形成、担い手の確保など)

【成果】

- ・小林地区 : 8月に地元関係者と話し合いを実施
- ・関地区 : 11月と3月に地元関係者との話し合いを実施



地元関係者と話し合い

～地域の特性と時代の変化に柔軟に対応し、畜産基盤の承継を図ります～

○地域畜産ブランドの販売力強化

【取組】

- ① 法人立ち上げに向けた支援 (対象 : 新規就農者2人)
- ② 付加価値の高い販売体制確立のための先進地視察、実需者との打ち合わせを実施 (対象 : 1戸)

【成果】

- ① 法人設立 (7月)
- ② 新たな販路の確保に向けた実需者とのマッチング



新たな事業展開のための視察